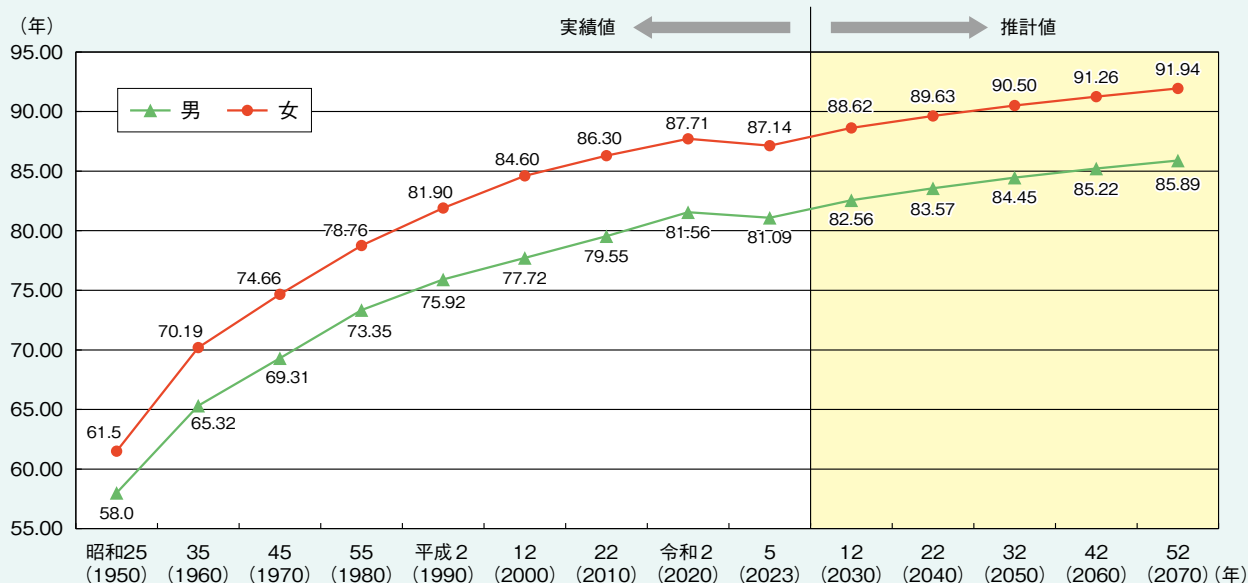


オ 将来の平均寿命は男性 85.89 年、女性 91.94 年

我が国の平均寿命は、令和 5 年現在、男性 81.09 年、女性 87.14 年となった。今後、男女

とも平均寿命は延びて、令和 52 年には、男性 85.89 年、女性 91.94 年となると見込まれている（図 1 - 1 - 4）。

図 1 - 1 - 4 平均寿命の推移と将来推計



資料：1950年、2023年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2020年までは厚生労働省「完全生命表」、2030年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の死亡中位仮定。
 （注）1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

2 高齢化の国際的動向

（1）世界の高齢化は急速に進展

令和 2（2020）年の世界の総人口は78億8,700万人であり、令和 42（2060）年には99億8,923万人になると見込まれている。

世界の総人口に占める65歳以上の者の割合（高齢化率）は、昭和 25（1950）年の5.1%から令和 2（2020）年には9.3%に上昇しているが、さらに令和 42（2060）年には18.5%にまで上昇するものと見込まれており、今後40年で高齢化が急速に進展することになる。地域別に高齢

化率の今後の推計を見ると、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展すると見込まれている（表 1 - 1 - 5）。

（2）我が国は世界で最も高い高齢化率である

我が国と欧米諸国の高齢化率を比較して見ると、我が国の65歳以上人口は平成 2（1990）年までは下位であったが、平成 17（2005）年には最も高い水準となり、今後も高水準が続くと見込まれている（図 1 - 1 - 6）。

表1-1-5 世界人口の動向等

	昭和25(1950)年	令和2(2020)年	令和42(2060)年 ※中位推計
総人口	2,493,093 千人	7,887,001 千人	9,989,232 千人
65歳以上人口	126,319 千人	737,325 千人	1,851,539 千人
先進地域	61,754 千人	245,953 千人	358,050 千人
開発途上地域	64,565 千人	491,372 千人	1,493,489 千人
75歳以上人口	38,039 千人	276,286 千人	904,045 千人
先進地域	19,684 千人	110,385 千人	210,726 千人
開発途上地域	18,355 千人	165,901 千人	693,318 千人
85歳以上人口	5,234 千人	65,740 千人	289,186 千人
先進地域	2,902 千人	32,094 千人	82,866 千人
開発途上地域	2,332 千人	33,646 千人	206,320 千人
65歳以上人口比率	5.1 %	9.3 %	18.5 %
先進地域	7.6 %	19.1 %	28.6 %
開発途上地域	3.8 %	7.4 %	17.1 %
75歳以上人口比率	1.5 %	3.5 %	9.1 %
先進地域	2.4 %	8.6 %	16.8 %
開発途上地域	1.1 %	2.5 %	7.9 %
85歳以上人口比率	0.2 %	0.8 %	2.9 %
先進地域	0.4 %	2.5 %	6.6 %
開発途上地域	0.1 %	0.5 %	2.4 %
平均寿命(男性)	44.5 年	69.3 年	75.8 年
同(女性)	48.4 年	74.7 年	80.4 年
合計特殊出生率	4.85	2.32	2.03

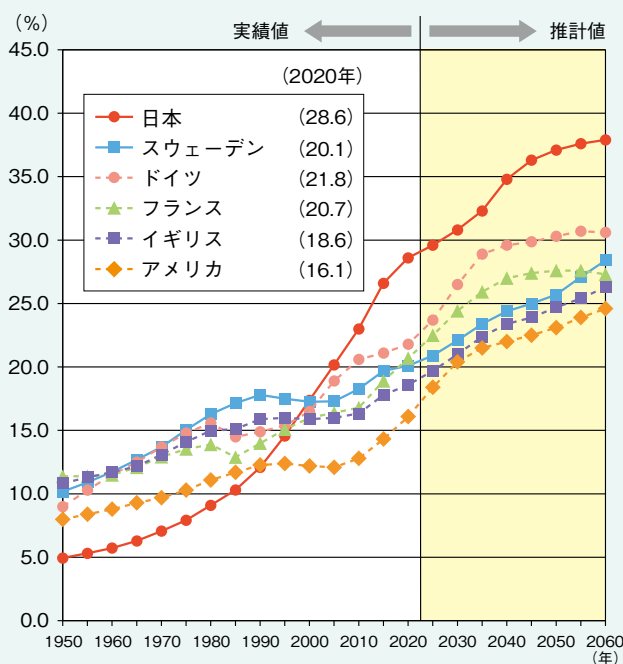
資料：UN, World Population Prospects : The 2024 Revision

(注) 先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

図1-1-6 世界の各年代別高齢者割合及び推移

1. 欧米(65歳以上人口)



2. アジア(65歳以上人口)

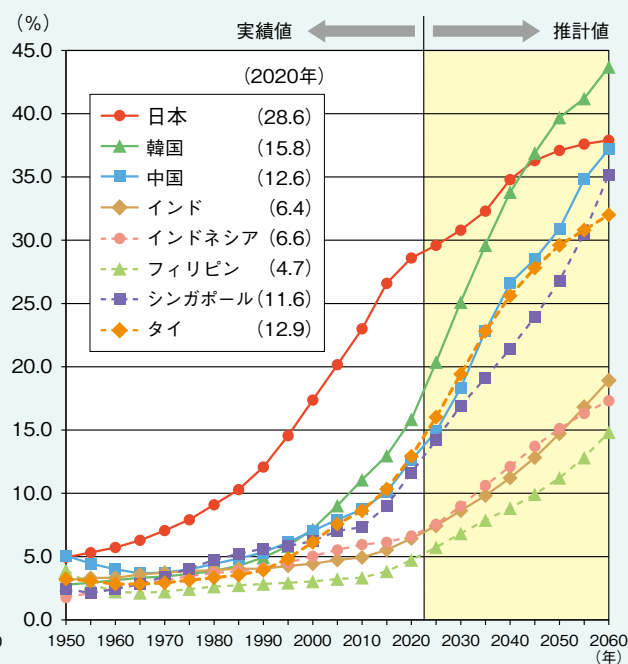
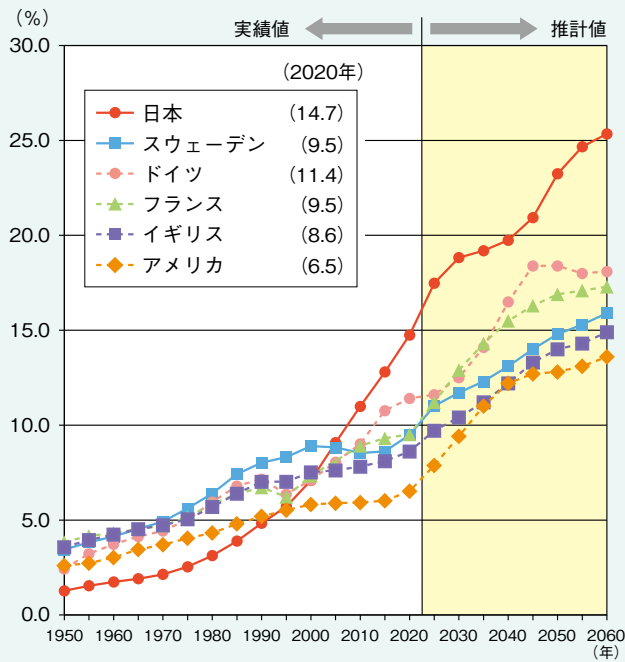
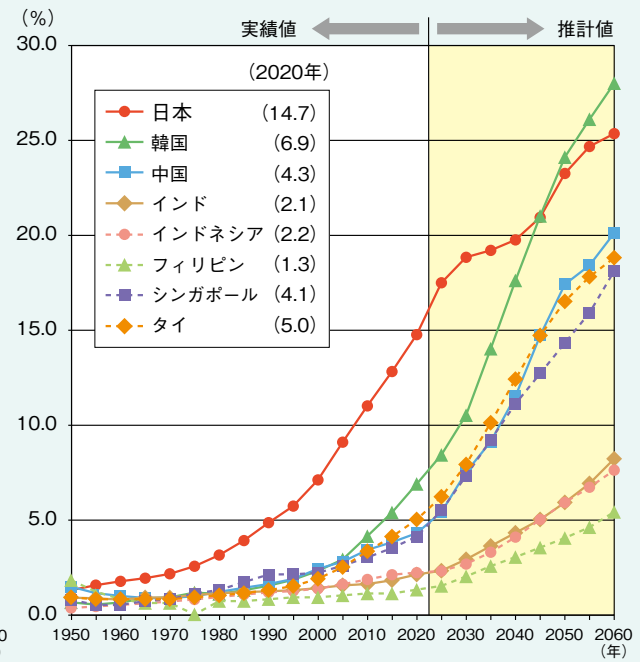


図 1 - 1 - 6 世界の各年代別高齢者割合及び推移（続き）

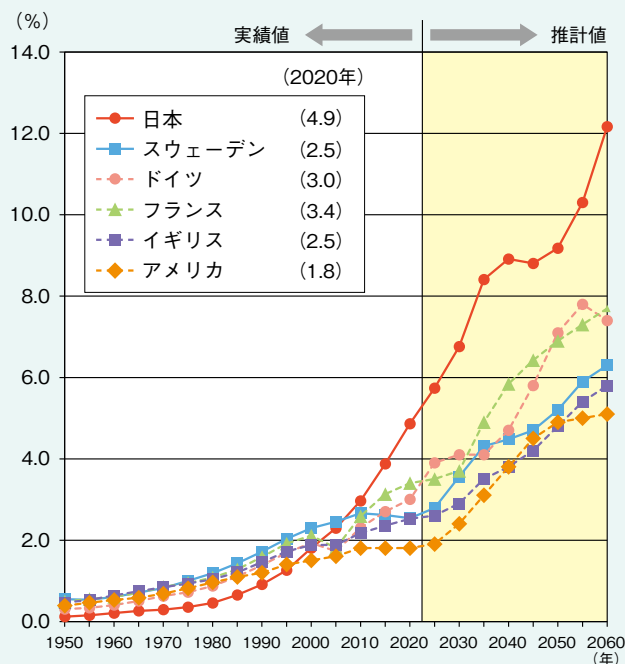
1. 欧米（75歳以上人口）



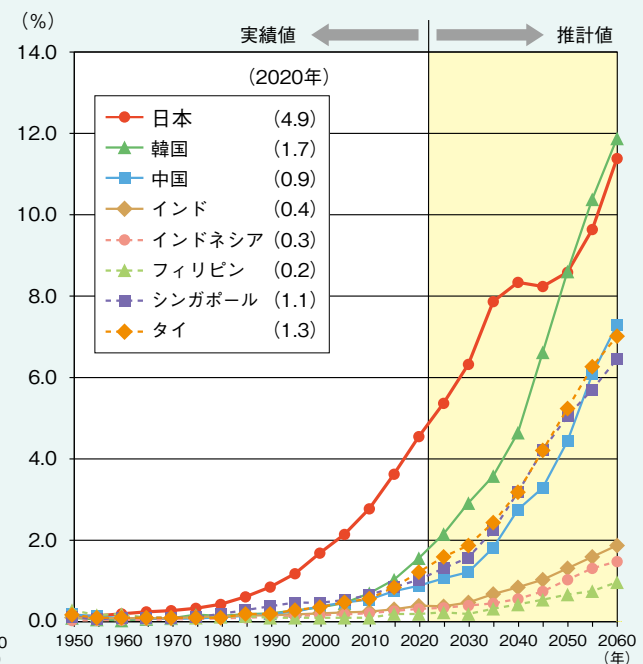
2. アジア（75歳以上人口）



1. 欧米（85歳以上人口）



2. アジア（85歳以上人口）



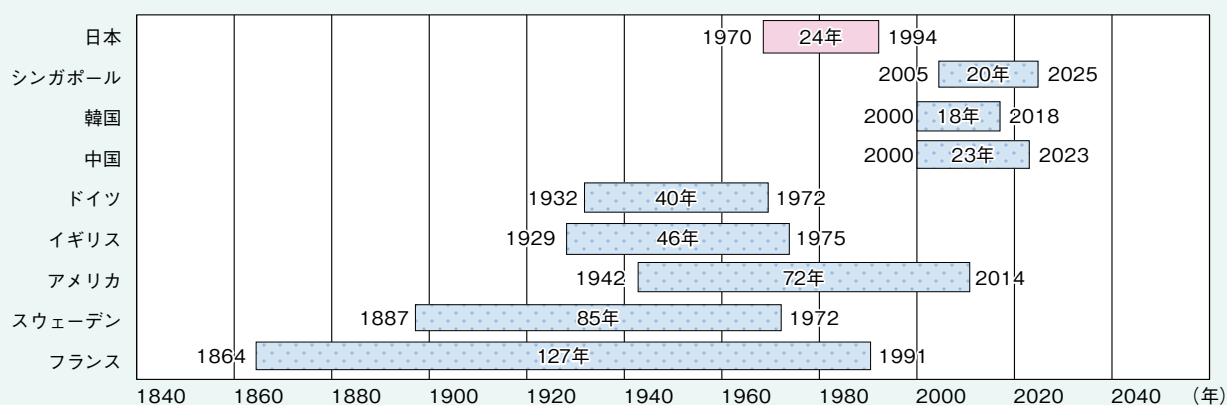
資料：UN, *World Population Prospects: The 2024 Revision*

ただし日本は、2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

高齡化の速度について、高齡化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数（倍加年数）によって比較すると、フランスが127年、スウェーデンが85年、アメリカが72年、比較的短いイギリスが46年、ドイツが40年であるのに対し、我が国は、昭和45

（1970）年に7%を超えると、その24年後の平成6（1994）年には14%に達した。一方、アジア諸国に目を移すと、韓国が18年、シンガポールが20年など、今後、一部の国でも我が国を上回るスピードで高齡化が進むことが考えられる（図1-1-7）。

図1-1-7 主要国における高齡化率が7%から14%へ達するまでの所要年数



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」（2025）

（注）1950年以前はUN, The Aging of Population and Its Economic and Social Implications (Population Studies, No.26, 1956) および Demographic Yearbook、1950年以降はUN, World Population Prospects: The 2024 Revision (中位推計) による。ただし、日本は総務省統計局『国勢調査報告』および国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』（令和5年推計）による（〔出生中位（死亡中位）〕推計値）。1950年以前は既知年次のデータを基に補間推計したものによる。